

Manin さんの歌
—— Blowing-up of Manin's motif ——

北海道大学 理学部 中村 郁

Manin さんの Motif はコオロギ、蟬、傘、布団でした。これを題（季題）として 1996 年 10 月 26 日の晴嵐亭の歌会（句会）は催された（と解釈したい）わけですが、その後少し作れましたので、お送りします。

Manin さんの詩の雰囲気は俗に言う ” 浦の苫屋の秋の夕暮れ ” ですから、まず一首。

コオロギの鳴く音も絶えて傘ひとつ
浦の苫屋の秋の夕暮れ

これを城崎 version にすると

コオロギの鳴く音も絶えて傘ひとつ
但馬城崎秋の夕暮れ

または

コオロギの鳴く音も絶えて柿ひとつ
但馬城崎秋の夕暮れ

コオロギの鳴く音も絶えて柿ひとつ
但馬湯を待つ秋の夕暮れ

それにしても、こおろぎのまったく鳴かないのは寂しすぎますので、Manin 夫人が赤い上着を着ていたことを、思い出しながら、

玄関に君置き忘れし赤き傘
かくれてひとりコオロギの鳴く

（このコオロギは誰？） これで少し相聞の歌になりましたので、もう少し強めて、（そうすると、もう コオロギではだめで、蟬になりますが、）

教室に君置き忘れし赤き傘
手にとれば蝉あつく鳴く午後

(この君は誰? この作者は誰? あつく鳴くのは誰?)

ところで、宮西さんの句は

風立ちぬ 蝉もほしがる 布団かな

でした。 こんなのはどうでしょうか。

コオロギを聴いたあたりか 柿ひとつ

Manin さんのすばらしい講義に感謝しつつ。

Manin 氏の講演録は東大セミナーノートより出版される予定。